

第14回安全品質協力会総会

ダイセル物流株式会社

2023年6月12日

2022年度安全品質実績及び 2023年度活動計画と目標

2022年度 安全品質実績

- ◇ 物流災害 : 0件 発生なし
- ◇ 労働災害 : 5件 人とリフト接触、蒸気による火傷、薬傷が発生
- ◇ 物流トラブル : 63件 全体件数は増加傾向（前年度比10%増）であり、
重大トラブルも前年比で増加傾向
- ◇ 商品事故 : 412件 全体件数は前年度と同数だったが、
受注件数1千件あたりの度数率は微増（1.35）

項目	2022年度		2021年度	2020年度	2019年度	2018年度
	目標件数	実績	実績	実績	実績	実績
物流トラブル	3以下	63	57	49	67	75
重大トラブル		39	33	32	41	40
物流災害		0	0	0	1	0
交通加害事故		7	1	0	2	0
誤出荷・誤納入		10	18	7	15	15
異物・コンタミ		1	0	1	5	1
漏洩		6	4	1	3	6
構内事故		15	10	23	15	18
物流クレーム	3以下	19	23	16	24	34
労働災害		5	1	1	2	1
商品事故	352件以下	412	412	404	502	611
自社	0件以下	15	15	9	8	21
構内作業	22件以下	5	12	12	5	7
貸切・配送・再保管	62件以下	113	110	91	146	210
路線	268件以下	279	275	292	343	373
商品事故発生度数率（1千件あたり）⇒		1.35	1.26	1.25	1.41	1.86

2022年度 物流トラブル

◇ 全体傾向

大きなリスクを抱えるトラブル（労働災害、交通加害事故、漏洩、構内事故）が増加傾向

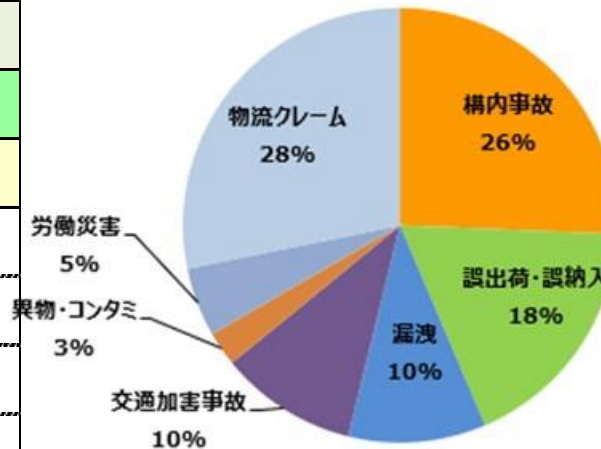
◇ 自社傾向

発生件数は前年比で増加傾向

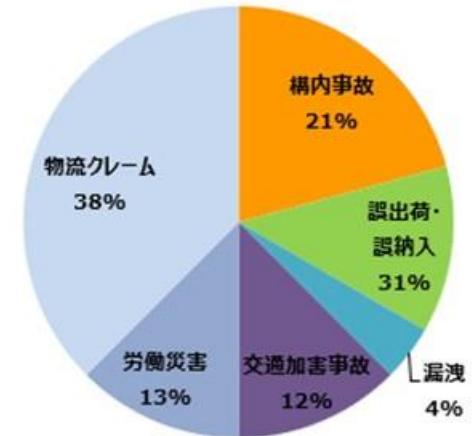
物流クレーム(8件)、構内事故（5件）、労働災害（3件）、交通加害事故（3件）、誤出荷・誤納入（3件）漏洩（2件）が発生しており、基本動作・ルール不遵守によるトラブルが多い

項目	2022年度		
	全体	協力会社	自社
物流トラブル	63	39	24
重大トラブル	39	26	13
物流災害	0	0	0
交通加害事故	7	4	3
誤出荷・誤納入	10	7	3
異物・コンタミ	1	1	0
漏洩	6	4	2
構内事故	15	10	5
物流クレーム	19	11	8
労働災害	5	2	3

協力会社トラブル傾向



自社トラブル傾向



2022年度 商品事故

◇ 商品事故：412件

全体件数は増加傾向

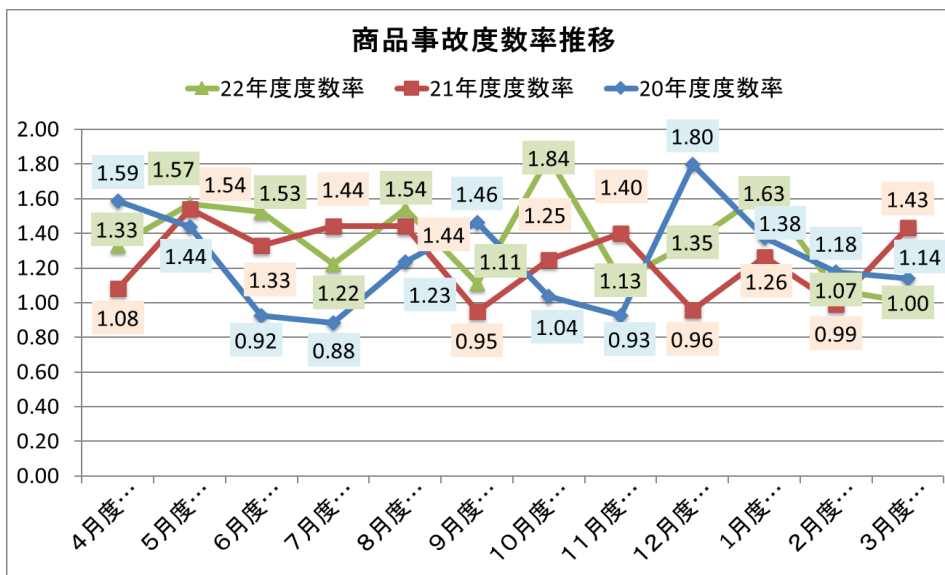
受注件数1千件あたりの度数率（1.35）も微増傾向

※2021年度：1.26 2020年度：1.25

- ・発生傾向：商品事故の約70%が「紙袋」で発生
- ・発生原因：フォークリフト荷役に起因するもの（車両への積卸時の接触など）
台車移動での接触、養生不足が主な原因

⇒ 引き続き、商品事故発生時の報告や社内教育にご協力お願い致します
また、トラブルと同様に再発防止に向け、各営業所との会議体や分科会を通じて
意見交換させて頂き、輸送品質維持・向上にご協力お願い申し上げます

項目	2022年度		2021年度	2020年度
	目標件数	実績	実績	実績
商品事故	352件以下	412	412	404
自社	0件以下	15	15	9
構内作業	22件以下	5	12	12
貸切・配送・再保管	62件以下	113	110	91
路線	268件以下	279	275	292
商品事故発生度数率（1千件あたり）⇒		1.35	1.26	1.25



2022年度 ダイセル物流安全品質目標

【目的】

2020年度中期計画に掲げた戦略課題を具体的に行うことにより
物流安全品質を着実に向上させ、お客様の安心度と信頼度を高める

【重点目標】

- (a)緊急対応を要する重大物流トラブルを起こさない
物流災害ゼロ、重大な加害交通事故ゼロ
経営者が判断する緊急事態（人的、社会影響など）ゼロ
- (b)以下に掲げる自社責の物流トラブル・商品事故ゼロ
物流災害、交通加害事故、労働災害、
ルール不遵守による物流トラブル
納入先等で誤納入品が使用される誤出荷・誤納入
自社・常駐協力会社が車輛による機材・建物などを損傷・破損させる構内事故
運搬・荷役中の製品落下・転倒事故
異物コンタミ、漏洩・オーバーフロー
- (c) 物流トラブル件数 : 28以下
- (d) 商品事故件数 : 391以下

2022年度 ダイセル物流安全品質目標

【重点課題】

- ① 手順書制改訂できる人づくり
各現場で手順書制改訂できる人財育成により、人づくりとルール・手順を守る人づくりを計画的に実施する
- ② 予防的活動の計画的実施
3 S、ヒヤリハット推進による重大トラブルの未然防止
ミエル、イエル、キケルによる風通しの良い職場づくりの推進
新規・変更時でのアセスメントの実施による潜在リスクの低減
事業所巡回での共通課題の認知と計画的改善
共育訓練の充実による知識・判断力、適正な技能向上
社内外監査の実施による業務適正化
各分科会活動の活性化と安全品質改善活動の推進
- ③ 緊急時対応の基盤充実
災害発生後の初動対応と手順・規程の整備を計画的実施

【具体的行動】

- (1) ひとり一人が手順・ルールを愚直に守り、“当事者意識”を持ち手順・ルール遵守を中心とした安全基盤を整備する
- (2) 「3 S」、「ヒヤリハット」、「K Y」及び「過去トラブル振り返り」により、変化点・異常に気付く感性を高める
- (3) 変化点・異常に気づいた時点で関係各所に必ず「報連相」を実施、対策検討・改善対応を行う

2022年度安全品質協力会活動実績報告

2022年度安全品質協力会活動

◇ 安全品質協力会幹事会

2022年9月29日：オンライン会議形式で開催

2023年3月23日：対面形式で開催

※新型コロナウイルスの影響から対面形式での活動が少なかった為、
第4期幹事会の任期を2023年度までに延長させていただきます。

第4期幹事会メンバー（2021年～2023年度）

分科会	会社名	役職名	氏名（※敬称略）	備考
ローリー	株式会社日輪	代表取締役社長	永井 元章	幹事長
貸切	藤原運送株式会社	専務取締役 営業部・安全品質管理部統括	立石 雄資	
配送	ダイセー倉庫運輸株式会社	品質安全向上室 室長 取締役執行役員	加藤 進	
構内作業	山九株式会社 神戸支店	神戸支店 支店長	大西 智毅	
路線	JPROジステックス株式会社	常務執行役員	西岡 聡	

◇ 工場見学会

中止（新型コロナウイルス感染対策上、各工場に大人数での入構が出来ない為）

2022年度安全品質協力会分科会活動及び 2023年度活動計画

ローリーGr

メンバー（敬称略）

- ・ NRS株式会社
- ・ 興生運輸株式会社
- ・ 中部興運株式会社
- ・ 株式会社長太
- ・ 株式会社日輪
- ・ 平和運送株式会社

2022年度安全品質実績（ローリーGr）

◇ 目標

- ・ 構内事故「ゼロ」
- ・ 漏洩トラブル「ゼロ」

◇ 2022年度実績

- ・ 全体トラブル件数 11件

構内事故 (2件)

漏洩トラブル (4件)

交通事故 (4件)

その他クレーム (1件) ※ETCカードの不一致

年度	構内事故	漏洩	交通事故 (加害)	その他	納期遅延	労働災害	異物 コンタミ	誤出荷 誤納入	書類不備 不携帯	計
2018年度	3	3			1		1			8
2019年度	2	2	2	2	1	1				10
2020年度	6	1		2	2					11
2021年度		2	1	4	1					8
2022年度	2	4	4	1						11

2022年度目標と取組み課題（ローリーGr）

◇ 目標

- ・漏洩トラブル「ゼロ」
- ・構内事故「ゼロ」

◇ 取組み課題

- ・ルール的重要性に関する継続的な教育が不足していた反省を踏まえ、各社間で直接対話を行ない、ルール遵守の意義・重要性の理解を深め、漏洩トラブルゼロに繋げる
- ・トラブル事例や危険予知トレーニング資料を継続活用し、安全意識の向上を図り、構内事故ゼロに繋げる

取組み課題	取組み内容
・漏洩トラブルの予防	<ul style="list-style-type: none">・ルール遵守の重要性を乗務員へ周知 （各社へ伺い管理者・乗務員へ説明実施）・教育ポイント集の冊子化と活用方法の確立
・構内事故の予防 （乗務員教育の充実）	<ul style="list-style-type: none">・KYT（危険予知トレーニング）活動の継続・トラブル・ヒヤリハット事例の共有化・取扱い製品教育

取組み事例①

取組み課題	取組み内容
・ 漏洩トラブルの予防	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルール遵守の重要性を乗務員へ周知 (各社へ伺い管理者・乗務員へ説明実施) ・ 教育ポイント集の冊子化と、活用方法の確立

出来たこと

- ・ 訪問共育を通じてルール遵守の重要性やルール無視による過去トラブル等を紹介するなどし、各社の乗務員にルール遵守の重要性を改めて周知することが出来た
※コロナ感染者数増によるリスクなどもあり、一部会社は2023年4月に実施
- ・ 各社と協議しながら新人教育時のポイントを集約し、小冊子化した
小冊子については、各社に配布して新人指導時に冊子を見せながら指導するなどの取組に繋げることが出来た

4. なぜルールを遵守する必要があるのか

◇ チェックリストを運用する目的は？

『自分の命、立会者の命を守ることトラブル防止のために運用しています
ヒトは同じ作業を何十年続けても何かの要因（焦り、作業中断・・・等々）で作業に抜け・漏れが発生します
抜け・漏れがある状態で作業を進めると、考えられないようなトラブルにつながり、命の危険を冒したり、顧客に迷惑を
かけたりします。それらを防止するために実施した作業に間違いがないかをチェックリストで確認します
以上のことから、トラブルを食い止めるための最後の砦（とりで）とも言えます
『誰も見てないし、わからないから先にチェックしておこう』等は厳禁です
必ず決められたタイミングでチェックするようにしてください！

チェックリスト

結果

確実な実施

トラブルゼロの達成

未実施

トラブル発生
※ヒヤリハット含む



◆各社乗務員の感想

- ・ チェックリストの重要性を改めて認識できた
- ・ 慌てず作業することを心掛けたい

精込作業

- ・ 精込時はタンク内の目視確認や
流量計のメーター等で液がタンク内に流入していることを
確認しましょう！
- ・ 精込開始後、すぐにバルブやホースから
漏れがないか確認！
- ・ 検尺精みの場合、
残り1500Lくらいから立会者と声掛け確認！

送液中は絶対車両から離れない、目を離さない
(定期的に車両を一回りして液漏れを確認する)

流量計メーター



納入作業

- ・ 納入時はタンク内や先方タンク残量メーター等で
送液されていることを確認しましょう
※先方タンク残量メーター等を見れない場合は、
立会者に送液状況を確認しましょう！



漏洩に注意！

- ・ 荷卸開始後、すぐにバルブ、ホース、ポンプからの
液漏れがないか確認すること！



異常時は、荷卸しを止め、応急措置をして立会者に連絡し、
指示を受けること。勝手な処置をしない
また、営業所へ連絡し、指示を受けること

納入中は絶対車両から離れない、目を離さない

チェックリスト=作業の抜け・漏れ防止の最後の砦
決められたタイミングで自分の実施した作業を確認してください！

取組み事例②

取組み課題	取組み内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 構内事故の予防 (乗務員教育の充実) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ KYT (危険予知トレーニング) 活動の継続 ・ トラブル・ヒヤリハット事例の共有化 ・ 取扱い製品教育

出来たこと

- ・ 協力会ホームページに危険予知トレーニング資料を掲載し、一部会社では安全会議や点呼時に活用することが出来た
 - ・ 各社で発生したヒヤリハットを全体分科会で報告するとともに、再発防止への取組や工夫を共有化することが出来た
- また、ヒヤリハット事例はありがとう新聞にまとめ、各社内では掲示・注意喚起を行うことが出来た

危険予知トレーニング

◇ あなたは車両①を運転し、矢印の方向に後退しています
この際、どんな危険があるでしょうか？、どのようなことに注意しますか？

どのような事故に繋がったか確認しましょう
原因・防止策も一緒に確認しましょう
⇒ <https://shinkokyo.or.jp/case25-30.html>
(神奈川県自動車共済協同組合様 使用許諾済み)

ありがとう新聞

乗務員のみならず
いつもありがとうございます

LYGr Vol.7

対策

① 洗車後や雨の後はホース箱のホースを
開けて水を抜く
② 出庫前のホースチェックの時つ水が
溜まっているかを確認する
【平和運送様さん】

対策

【顧客構内で転倒しそうになりヒヤリ】
作業に夢中になり充填場の水たまりで
足が滑り転倒しそうになった

常に危険箇所はないかという意識を持ち
(身の安全を第一に) 作業を行う
【NRS様さん】

対策

① 洗車後や雨の後はホース箱のホースを
開けて水を抜く
② 出庫前のホースチェックの時つ水が
溜まっているかを確認する
【平和運送様さん】

2022年度分科会活動の振り返り（ローリーGr）

取組み課題	取組み内容
・ 漏洩トラブルの予防	・ ルール遵守の重要性を乗務員へ周知 （各社へ伺い管理者・乗務員へ説明実施） ・ 教育ポイント集の冊子化と、活用方法の確立
・ 構内事故の予防 （乗務員教育の充実）	・ KYT（危険予知トレーニング）活動の継続 ・ トラブル・ヒヤリハット事例の共有化 ・ 取扱い製品教育

出来なかったこと

・ 重大トラブル（漏洩、構内事故）の発生防止

■ 漏洩トラブル・・・4件発生

→ 機器故障による漏洩は減少傾向だが、ルール不遵守や基本動作漏れによるトラブルが引き続き発生した（ルール遵守の意識醸成が不十分）

■ 構内事故・・・2件発生

→ いずれも後退時に発生しており、目測の見誤りや見るべきポイントを見れていなかったことによる構内事故が発生した（注視ポイントの精査・周知が不十分）

2023年度目標と取組み課題（ローリーGr）

《目指す姿》

- ・ ルールの意義・重要性の継続的な教育、新人教育時のポイントを各社で共有化することで、トラブル「ゼロ」を達成できている

◇ 目標

- ・ 漏洩トラブル「ゼロ」
- ・ 構内事故「ゼロ」

◇ 取組み課題

- ・ 漏洩トラブルの予防
⇒漏洩トラブルは、作業の抜け漏れ・ルール不遵守により発生していることを踏まえ、引き続き、ルール遵守の重要性を訪問共育にて実施し、ルール遵守の意識醸成を行う
- ・ 構内事故の予防
⇒各社と協議して降車確認時の注視ポイントを集約する

取組み課題	取組み内容
・ 漏洩トラブルの予防	・ ルール遵守の重要性を乗務員へ周知 （各社へ伺い管理者・乗務員へ説明実施） ・ トラブル・ヒヤリハット事例の共有化
・ 構内事故の予防	・ KYT（危険予知トレーニング）活動の継続 ・ 降車確認時の注視ポイントを集約する

2023年度分科会活動計画（ローリーGr）

共通取組み 課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
漏洩トラブルの 予防	共育内容の 検討		ルール遵守の重要性を乗務員へ再度周知 ※取扱い製品共育も含む									振り 返り
	トラブル・ヒヤリハット事例の 収集				各社での取組み内容の集約、討議、選定						ありがとう 新聞の作成、 掲示	
構内事故の 予防	注視ポイントの抽出、討議、選定					注視ポイント周知資料作成、 共育実施					活用状況 振り返り	
	危険予知訓練と過去トラブル資料の定期更新（通期）											
分科会 開催月 （敬称略）	全体	-	-	-	全体 （対面）	-	-	-	全体 （対面）	-	-	全体 （対面）
各社訪問共育 （敬称略）	-	-	平和 ・ NRS	日輪 ※千葉 ・ 長太	-	日輪 ※新井	日輪 ※大阪	日輪 ※岡山 ・ 興生	日輪 ※九州	-	中部	-

貸切Gr

メンバー（敬称略）

- ・ 揖龍運送株式会社
- ・ 岩谷運輸株式会社
- ・ 大竹双葉運輸株式会社
- ・ 関西陸運株式会社
- ・ 大信物流輸送株式会社
- ・ 株式会社トーウン
- ・ 富士運送株式会社
- ・ 藤原運送株式会社

2022年度安全品質実績（貸切Gr）

【目標】 構内事故ゼロ、誤納入ゼロ、燃料・オイル漏れゼロ継続

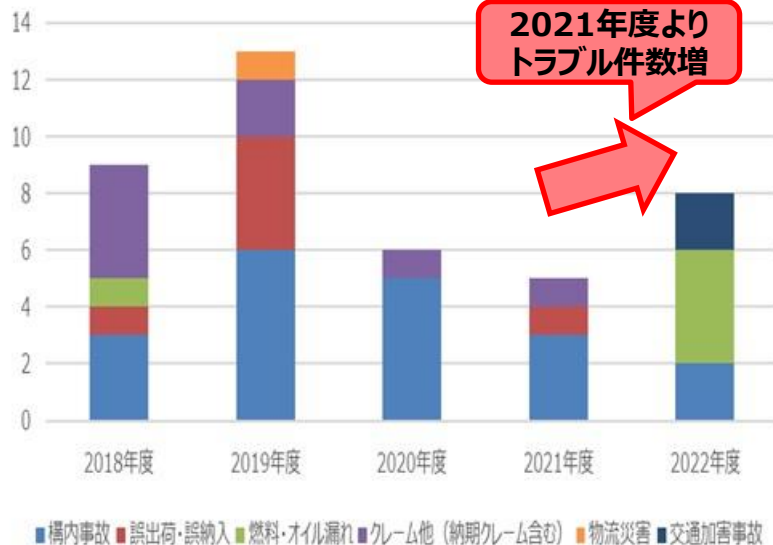
【実績】 2022年度：8件（2021年度：5件 2020年度：6件）

- ・ 構内事故 : 2件（2021年度：3件）
- ・ 交通加害事故 : 2件（2021年度：0件）
- ・ 燃料・オイル漏れ : 4件（2021年度：0件）
- ・ 誤出荷、誤納入 : 0件（2021年度：1件）
- ・ その他クレーム : 0件（2021年度：1件）

構内事故や誤出荷・誤納入は減少傾向となっている

昨年未発生だった、交通加害事故や燃料・オイル漏れ（4年ぶり）が発生した

【貸切Gr】物流トラブル実績推移



年度	構内事故	交通加害事故	燃料・オイル漏れ	誤出荷・誤納入	クレーム他（納期クレーム含む）	物流災害	合計
2018年度	3	0	1	1	4	0	9
2019年度	6	0	0	4	2	1	13
2020年度	5	0	0	0	1	0	6
2021年度	3	0	0	1	1	0	5
2022年度	2	2	4	0	0	0	6

2021年度より
増加傾向

2022年度は
未発生

2022年度目標と取組み課題（貸切Gr）

◇ 目指すべき姿

- ・ 教育資料、教育方法を充実させ、物流トラブルの再発防止を図る

◇ 目標

- ・ 構内事故『ゼロ』、誤納入『ゼロ』、燃料・オイル漏れ『ゼロ』継続

◇ 取組み課題

- ・ 乗務員の基本動作定着
- ・ 過去トラブルの研究

取組み課題	取組み内容
乗務員の基本動作定着 （全トラブルを防ぐ）	<ul style="list-style-type: none">・ 引き続き、分科会メンバー各社への訪問教育の実施 ※基本動作漏れやルール無視や理解不足により発生させた トラブルの影響を乗務員に伝え、基本動作が重要という意識を醸成する・ 基本動作小冊子を用いた教育方法の確立（2次以降の協力会社含む）
過去トラブルの研究	<ul style="list-style-type: none">・ 過去トラブル対策の風化・形骸化防止、さらなる有効な対策について 討議を行い、改善を図る・ 引き続き、他荷主含めた構内事故事例紹介と対策の共有化

2022年度分科会活動の振り返り（貸切Gr）①

取組み課題	振り返り	今後の課題
乗務員の 基本動作定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染拡大により一部スケジュールを調整しながらも各社に訪問共育が出来た（1社のみ未実施） ・ ①過去トラブル概略、②トラブルによる影響、 ③基本動作の紹介（基本動作小冊子）をベースに、“基本動作がなぜ重要か”について乗務員に共育出来た 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本動作抜け・漏れによるトラブルが発生していることも踏まえ、訪問共育を継続し、基本動作が重要という意識の更なる醸成が必要 ・ 基本動作が重要という概念をより直感的※に乗務員へ伝えていくことが必要 ※製品の価値や用途を伝えて丁寧な荷扱いを啓発する

訪問共育資料（抜粋）

①過去トラブル概略

3.物流トラブル事例紹介

DAICEL

◇ 構内事故：燃料漏れ



4/22
ダイセル播磨工場での燃料漏れ



5/12
ダイセル播磨工場での燃料漏れ

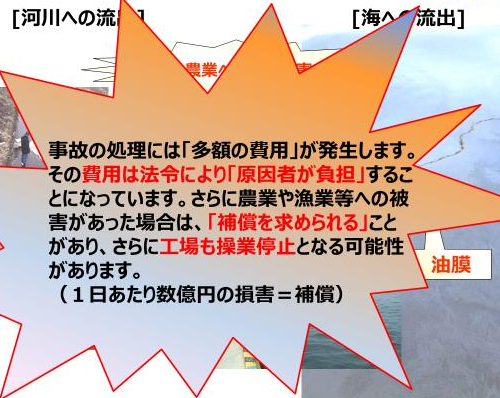
積込指示書オイル漏れ等チェック欄

搬入搬出前・積み出し前	場所	オイル漏れ	燃料漏れ
時間			
時 分			
時 分			
時 分			

- ・ いずれのトラブルも工場関係者が第一発見者となっております
- ・ 早期発見、拡散防止のため決められたタイミングでチェックし、積込指示書や荷卸検品にチェック記録を残してください

②トラブルによる影響

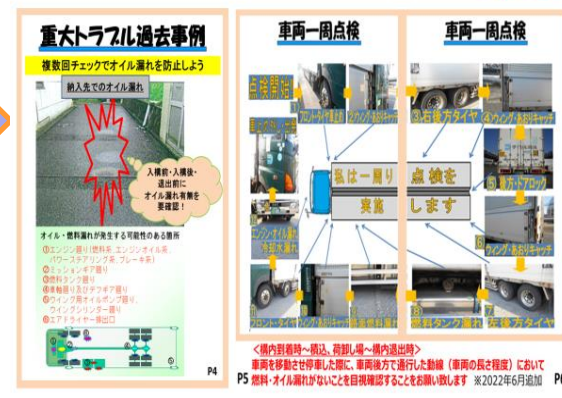
DAICEL



③基本動作内容共有

<参考> 乗務員基本動作集資料 P4～6

DAICEL



2022年度分科会活動の振り返り（貸切Gr）②

取組み課題	振り返り	今後の課題
過去トラブルの研究	<ul style="list-style-type: none"> 過去に姫路地区、大竹地区で発生した過去トラブルの対策を振り返り、有効性や改善の確認が出来た 類似トラブル防止を目的に、他荷主で発生した構内事故事例を共有化し、接触防止に繋がる各社の取組などを共有化することが出来、構内事故も減少傾向になった ※各社が双方向に意見交換出来た 	<ul style="list-style-type: none"> 減少傾向ではあるものの例年発生している構内事故や誤納入について継続して対策の有効性等について確認が必要 オイル、燃料漏れのトラブル事例や各社での取組事例を共有化し、更なる予防策の検討

トラブル共有化資料

2. 接触状況写真①



構内事故事例共有化



2023年度目標と取組み課題（貸切Gr）

◇ 目指すべき姿

- ・ 教育資料、教育方法を充実させ、物流トラブルの再発防止を図る

◇ 目標

- ・ 構内事故『ゼロ』、誤納入『ゼロ』、燃料・オイル漏れ『ゼロ』 継続

◇ 取組み課題

- ・ 乗務員の基本動作定着
- ・ 過去トラブルの研究

取組み課題	取組み内容
乗務員の基本動作定着 （全トラブルを防ぐ）	<ul style="list-style-type: none">・ 基本動作冊子や過去トラブル事例を活用して引き続き訪問共育を行い、基本動作が重要という意識を醸成していく・ 製品の価値、用途等を共育資料に盛り込み、丁寧な荷扱いを訴求し、商品事故撲滅に繋げる
過去トラブルの研究	<ul style="list-style-type: none">・ 誤納入や構内事故の過去事例をもとに、対策の有効性等について確認する・ 他荷主でのオイル、燃料漏れトラブルの概要・対策を共有化して類似トラブル防止の啓発や更なる対策の検討を行う

2023年度分科会活動計画（貸切Gr）

▼：全体分科会
▼：乗務員教育

取組み 課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会 開催月	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	—	▼	▼
乗務員の 基本動作定着	・ 過去トラブルや製品特性を交えた共育資料による 訪問共育の実施 ・ 実施後の振返り											2023 年度 取組 振返り
過去トラブ ルの研究	・「オイル漏れ・誤納入」 トラブル概要の再周知し、風化・形骸化を防ぐ ・分科会メンバーによるオイル・燃料漏れのトラブル事例、対策の共有化 他社事例をもとに類似トラブル防止につなげる											
乗務員 教育日程案	—	—	—	—	揖龍 運送 ・ トウウ 大阪	大竹 双葉 運輸 ・ 富士 運送	トウウ 熊本	岩谷 運輸	藤原 運送	予備	大信 物流 輸送 ・ 関西 陸運	予備

配送Gr

メンバー（敬称略）

- ・ 磯部運輸倉庫株式会社
- ・ ダイセー倉庫運輸株式会社
- ・ 株式会社谷田運送
- ・ 光運送株式会社
- ・ 立正トランスポート株式会社
- ・ 山一運輸株式会社

2022年度安全品質実績（配送Gr）

《目指す姿》

- ・ 注意ポイントにおける基本作業の定着化による再発トラブルの防止

◇ 目標

- ・ 「誤納入ゼロ」、「納入時クレームゼロ」、「構内事故ゼロ」の達成

◇ 実績

- ・ 過去トラブル事例を中心とした啓蒙活動により、「納入時クレームゼロ」、「構内事故ゼロ」の達成できたが、「誤納入ゼロ」は未達成となった

◆ 配送Gr 物流トラブル実績推移

年度	トラブル分類								
	誤納入	構内接触	油漏れ	製品損傷	納期遅延	交通(加害)	災害・労災	その他	合計
2018年度	2	1		1				1	5
2019年度	3	1							4
2020年度	1	2							3
2021年度	2	0							2
2022年度	1	0							1

2022年度目標と取組み課題（配送Gr）

《目指す姿》

- ・ 注意ポイントにおける基本作業の定着化による再発トラブルの防止

◇ 目標

- ・ 「誤納入ゼロ」、「納入時クレームゼロ」、「構内事故ゼロ」の達成

◇ 取組み課題

- ・ 意識付け活動の継続
- ・ 危険予知の感性向上による類似トラブル防止

取組み課題	取組み内容
注意ポイントの意識付け	・ 注意ポイント冊子の活用及び内容の充実 特に構内事故防止のポイントや他分科会の内容を追加する
	・ トラブル事例研究 誤納入・納入時クレームに関する過去トラブル事例で、原因と対策の有効性について意見交換する
危険予知の感性向上	・ ヒヤリハット事例の共有 重大な災害や事故を未然に防ぐ取り組みの一つとして、各社から提示された事例を基にヒヤリハット新聞を作成し、共有化を図る
	・ ドラレコ ヒヤリハット事例の活用 提供した事例で、乗務員に討議してもらい危険予知の感性向上を図る

2022年度分科会活動の振り返り（配送Gr）

取組み 課題	取組み内容	達成状況	今後の課題
注意ポイント の意識付け	・ 注意ポイント冊子の活用及び 内容の充実 特に構内事故防止のポイント や他分科会の内容を追加する	・ 冊子の活用・充実に関する意見交換を 実施 ・ 注意ポイントを追加、小冊子として印刷し 各社に配布	・ 冊子を活かした教育 ・ 他分科会への紹介
	・ トラブル事例研究 過去トラブル事例で、原因と対 策の有効性について意見交換する	・ 構内事故事例に関する各社の意見を 共有化することで対策立案の一助とした	・ 継続
ヒヤリ・ハット 事例の共有	・ ヒヤリハット事例の共有 重大な災害や事故を未然に防ぐ取 組みの一つとして、ヒヤリハット新 聞を作成し、共有化を図る	・ 22年に各社から提示された事例にて ヒヤリハット新聞を作成して配布	・ 継続
	・ ドラレコ ヒヤリハット事例の活用 提供した事例で、乗務員に討議し てもらい危険予知の感性向上を図 る	・ 事例に関して各社で意見交換してもらい、 危険予知の感性向上につなげた	・ 継続

取組み内容

◇分科会を通じ、『注意ポイント』冊子の充実に関する意見交換および冊子印刷と配布を実施
トラブル事例は動画でも各社討議、・トラブル事例は研究テーマ別に各社の意見を共有

注意ポイントの
意識付け

<注意ポイント冊子>



<トラブル事例>



<事例研究>

事務トラブル事例①

BT210452

事務担当が送り状に路線伝票をセットする際、同一会社でA工場とB工場のそれぞれの送り状に路線伝票をテレコにセットする間違いを発生させた。

- ◇伝票セットは事務員2名が担当し、伝票セット前確認と伝票セット時チェック、伝票セットは手が空いている者が1人で実施したり、分担したりとその日の業務状況で手分けして行っていた。
- ◇セット者のサインは実施していない為、当日もどちらが当該伝票のセットを実施したかは不明となった。(どちらも自分がセットしたかも・・・と覚えていない)
- ◇事務員2名は過去に発生した誤納入で工場間違いや住所間違いの教育を受け、照合は工場名と住所の最後まで確認することは認識していた。
- ◇結果的には、路線伝票と送り状のセット時の照合で、工場名と住所を最後まで確認していなかった。

- 対策
- ◇伝票セット手順を変更し、手順書を作成して事務員に教育を行う
 - ◇確認作業の徹底と誤納入及び作業ミスによる影響度の再教育を行う

今回の問題点は何か？ あなたならどうしますか？

事務トラブル事例①

■送り状と路線送り状セット手順

①横道指示書の路線伝票発行チェック

(1)チェック後は実施者のサインを記載する。

②路線伝票と送り状のセット

- (1)路線伝票と送り状の内容を目視確認で照合
- (2)控え伝票を切り離し、控え伝票と送り状の項目(納入先、工場名、住所、個数、納期)をし点チェックで照合する。
- (3)セット後は実施者のサインを記載する。

○送り状と路線送り状ダブルチェック
⑤：セット済送り状

⑥：路線送り状投入

CC：ダブルチェック書

<ヒヤリハット新聞>



危険予知の
感性向上

2023年度分科会活動計画（配送Gr）

取組み課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会実施月			▼			▼			▼			▼
22年振返り、23年活動計画報告			●									
注意ポイントの意識付け			冊子を使った共有 (DL Sから訪問もしくはDL S構内で説明)									
トラブル事例研究			過去トラ 事例研究①			過去トラ 事例研究②			過去トラ 事例研究③			
ヒヤリハット事例の共有			ヒヤリ・ハット募集						新聞作成			新聞 展開
意見交換			荷扱いポイント集 の活用			ドラレコ・ カーナビの活用			注意ポイント集 の活用状況			振返り

構内Gr

メンバー（敬称略）

- ・ 河崎運輸機工株式会社
- ・ 関栄運輸株式会社
- ・ 株式会社ゲットアップ°
- ・ 山九株式会社 岩国支店
- ・ 山九株式会社 神戸支店
- ・ 日本通運株式会社 姫路支店
- ・ 株式会社ハマダ

2022年度目標と取組み課題（構内Gr）

《目指す姿》

構内Grメンバー内での連携強化で相互取組みの浸透化を目指す

◇ 目標

- ・ 物流トラブル『ゼロ』、商品事故『対前年50%減』、無事故継続日数90日

◇ 取組み課題

- ・ 手順書通りの作業が現場で実施出来ているか管理者がチェック
- ・ 構内G r の各職場において、現場巡回時に改善指摘ができる協力関係の構築
- ・ 無事故継続日数を設定し、構内Grメンバーで共有化、目標達成を目指す（再挑戦）

取組み課題	取組み内容
手順書通りの作業が現場で実施出来ているか管理者がチェック	管理者が手順書通りの作業ができているか現場にてチェックを実施 定例会でチェック結果を共有し、各社にて協議 フォーク作業時における指差呼称は各企業で設定したポイントで継続実施
他職場の巡回時にビフォー（改善指摘）を抽出し合える関係を構築する	各事業所を巡回（広畑工場→播磨工場→網干工場→大竹工場） 構内G r メンバーで巡回を行い、安全品質向上に繋がるビフォーを抽出 アフター化のアイデアを協議する
構内分科会全社で無事故継続日数を設定し、共通認識を持って活動を行う	構内G r 全作業者に、目標を周知し達成を目指す（無事故継続日数90日） 現場からの気付き・気掛かりを漏れなく吸上げ、安全と品質の向上に努める
トラブル事例の共同研究を継続し類似トラブルの再発を防止する	物流トラブル、商品事故の共有化やヒヤリハットの事例研究 事例集の作成と配布

2022年度分科会活動計画(構内Gr)

取組み課題	2022年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会実施月			▼			▼			▼			▼
手順書通りの作業が現場で実施出来ているか管理者がチェック	各社のチェック結果協議			各社のチェック方法を協議 チェック結果協議			各社様のチェック結果協議			実施結果 改善結果 横展開		
他職場の巡回時にビフォー（改善指摘）を抽出し合える関係を構築する	6月 広畑工場			9月 播磨工場			12月 網干工場			3月 大竹工場 ありがとう新聞 掲載案件選定		
構内分科会全社で無事故継続日数を設定し共通認識を持って活動を行う	トラブル・商品 事故実績確認 予防に向けた協議			⇒ 上期振返り 下期の重点活動 協議			⇒ 活動結果の 中間確認			年間結果にて協議 次年度目標設定		
トラブル事例の共同研究を継続し類似トラブルの再発を防止する	物流トラブル・商品 事故・ヒヤリハットの事例研究			物流トラブル・商品事故・ヒヤリハットの事例研究			トラブル対策 横展開状況確認			年間結果にて協議 活動成果の確認		

2022年度分科会活動の振返り(構内Gr)

◇ 2022年度 分科会目標

物流トラブル『ゼロ』、商品事故『7件以下（対前年50%減）』、無事故継続日数90日以上

◇ 2022年度実績

【物流トラブル】

全体で8件発生し、目標は未達成となった。

⇒入出荷関連のトラブルはゼロだったが、充填設備関連の労災トラブルが増加、
リフトによるトラブルも前年と同数発生し、減らすことが出来なかった。

【商品事故】

全体で17件発生し、目標は未達成（前年14件）となった。

⇒リフト操作関連の件数が増加してしまった。

物流トラブル

年度	分科会計	要因分類別件数					
		リフト関連 トラブル	入出荷関連 トラブル	構内 車両接触 トラブル	充填関連 トラブル	特殊設備 トラブル	その他
2018年度	8	2	3	0	2	0	1
2019年度	9	1	1	1	2	1	3
2020年度	8	2	4	1	0	0	1
2021年度	8	4	3	0	0	0	1
2022年度	8	4	0	0	2	0	2

商品事故

年度	分科会計	要因分類別件数							
		リフト 操作ミス	荷扱い ミス	パレット 不良	積み方 不良	動物・鳥 による汚損	養生 不良	車両・手押 台車による	その他
2018年度	13	6	3	0	0	1	0	0	3
2019年度	11	8	2	1	0	0	0	0	0
2020年度	18	16	1	0	0	0	0	0	1
2021年度	14	8	2	0	0	0	0	0	4
2022年度	17	12	2	0	0	0	0	0	3

2022年度分科会活動の振り返り(構内Gr)

取組み課題	振り返り	今後の課題
手順書通りの作業が現場で実施出来ているか管理者がチェック	当初、手順書通りの作業が実施出来ているかを現地に確認することを計画していたが、新型コロナウイルスの影響もあり、各社からの安全品質向上に関する取り組みをご紹介頂き、意見交換することに計画を変更した。	各社からの安全品質向上に関する取り組みをご紹介頂くことは継続し、各現場訪問時に実施状況と効果を確認する。
他職場の巡回時にビフォー（改善指摘）を抽出し合える関係を構築する	各事業所を巡回（広畑工場→播磨工場→網干工場→大竹工場）する計画だったが、新型コロナウイルスの影響もあり、播磨工場（9月）・広畑工場（3月）の巡回となった。	22年度実施出来なかった各事業所（網干・大竹）、または各現場・倉庫拠点への巡回を計画する。
構内分科会全社で無事故継続日数を設定し、共通認識を持って活動を行う	無事故日数最長69日で連続90日は未達となったが、前年度の最長期間(50日)よりも延ばすことが出来た。	対象を「フォークリフトによるトラブル、商品事故」に絞り、発生なしの継続日を90日間に設定し、達成できるように活動する。
トラブル事例の共同研究を継続し類似トラブルの再発を防止する	構内分科会を通じて、事例の展開は実施出来ているが、トラブル件数は横ばい状態で基本的なルールを軽視したトラブルも続いている。	再発トラブルを撲滅する為に継続する。

取り組み事例① 各社改善紹介

河崎運輸機工株式会社 様 倉庫内のリフトと人の接触を予防



プラッターフォークリフトの回転灯をLED化することで周囲からの視認性をアップさせた

株式会社ゲットアップ 様 部品置き場の改善



溢れている部品を整理し、先入先出を出来る様にコロコンローラーを設置した

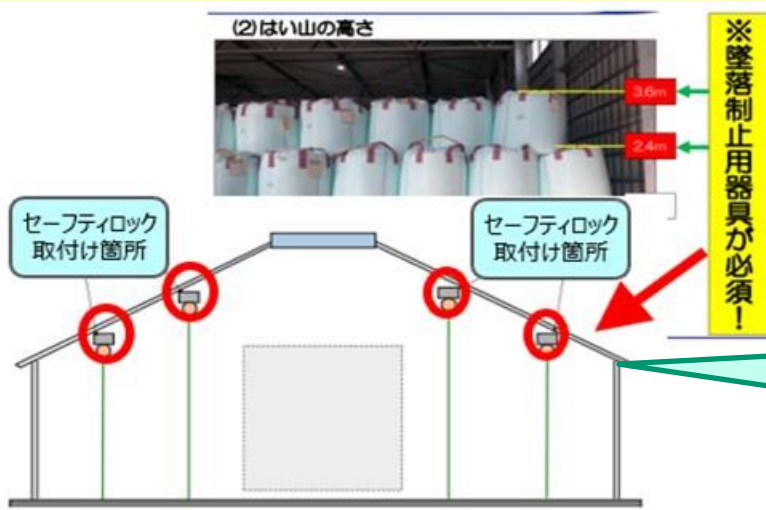
取り組み事例② 各社改善紹介

山九株式会社 神戸支店 様 倉庫内のハンドリフトと障害物の接触を予防



扉付近に注意喚起表示と路面にセンターライン指示表示を引き接触のリスクを低減させた

山九株式会社 岩国支店 様 墜落制止用器具の設置



墜落制止用器具を倉庫のどの位置からでも使用できるようにした

取り組み事例③ 各社改善紹介

株式会社ハマダ 様 構内設備と車両の接触を予防



パイプラック上の配管が、ウイングトラック高さより低い位置にあり、当該支柱にトラックを近づけ過ぎると配管に接触する危険があった



配管手前の路面に白線を引き、後方カメラで、それを目印にバック駐車することで接触のリスクを低減させた

日本通運株式会社 姫路支店 様 『この事故・労災絶対ゼロ！プロジェクト』を展開



取り組み事例④ 各社改善紹介

関栄運輸 様 労災再発防止の取り組み

災害発生場所

リフト降車時に捻挫

発生日：2021年10月25日



足が地面に滑り落ち、右足首が捻挫した。



「リフト降車時
3点支持
確認ヨシ!」

ヨシ!



過去のフォークリフト降車時の労災事例を再発させないように、災害発生場所への表示だけでなく、フォークリフト自体にも降車時に目に付く場所に表示をしている

ダイセル物流 フォークリフト始業点検項目のミエル化

作業開始前の点検項目（日常点検）	
エンジン始動前	<div>【外観点検】 ①地面にオイル、水が漏れていないか ②タイヤに摩耗、損傷はないか ③タイヤのホイールナットに緩みはないか</div> <div></div>
	<div>【フォークマスト、チェーンの点検】 ①フォークの取付状態、摩耗はないか ②マストに亀裂はないか ③チェーンの給油、張り具合に異常はないか</div> <div></div>
キー	<div>【計器類の点検】 ①計器類が正常に点灯しているか ②燃料は充分にあるか</div> <div></div>

現在の始業点検表でも点検項目毎にポイントが記載されているものの、新人等に教育や説明をする際、より具体的に説明できないかと考え、写真を付け、一目でわかるように改善した

2023年度目標と取組み課題(構内Gr)

《目指す姿》

構内Grメンバー内での連携強化で相互取組みの浸透化を目指す

◇ 目標

- ・ フォークリフトによる物流トラブル・商品事故ゼロの継続日数90日以上を達成する

◇ 取組み課題

- ・ 構内Gr各社の取組み共有化、現場巡回による安全品質向上に繋がる意見交換を活性化させる
- ・ 引き続き無事故継続日数を設定するが、構内Grメンバーで達成感を共有できるように目標を「フォークリフトによるトラブル」に絞り、取り組む

取組み課題	取組み内容
他職場の巡回とその際の気づき等を自拠点へ横波及することで安全品質の相乗効果を図る	22年度実施出来なかった各事業所（網干・大竹）、または各現場・倉庫拠点への巡回を計画、実施し、各現場での安全品質向上に関する取組み等を意見交換する。また、そこで得られた知見を自職場に展開することでより良い安全品質向上に関する取組みに繋げていく。
無事故継続日数を設定し、共通認識を持って活動を行う	今年度は対象を「フォークリフトによるトラブル、商品事故」に絞り、発生なしの継続日数を90日間以上を目標とし、達成できるように活動する。
トラブル事例の共同研究を継続し類似トラブルの再発を防止する	分科会を通じて、物流トラブル、商品事故の共有化やヒヤリハットの事例研究・事例集の作成と配布を継続し、再発トラブル防止を図る。

2023年度分科会活動計画(構内Gr)

取組み課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会実施月		▼		▼		▼			▼			▼
他職場の巡回とその際の気づき等を自拠点へ横波及することで安全品質の相乗効果を図る	前年度振り返り 年間活動計画検討			7月：網干 9月：大竹 ※各協力会社拠点への訪問も計画する			12月 播磨工場			3月 広畑工場 ありがとう新聞 掲載案件選定		
無事故継続日数を設定し、共通認識を持って活動を行う	⇒ 分科会でのトラブル・商品事故の実績報告			⇒ 分科会でのトラブル・商品事故の実績報告			⇒ 分科会でのトラブル・商品事故の実績報告			活動振り返り 次年度目標設定		
トラブル事例の共同研究を継続し類似トラブルの再発を防止する	物流トラブル・商品事故・ヒヤリハットの事例研究			物流トラブル・商品事故・ヒヤリハットの事例研究			トラブル対策 横展開状況確認			年間結果にて協議 活動成果の確認		

路線Gr

メンバー（敬称略）

- ・岡山県貨物運送株式会社
- ・近物レックス株式会社
- ・JPロジスティクス株式会社
- ・第一貨物株式会社
- ・トナミ運輸株式会社

2022年度安全品質実績（路線Gr）

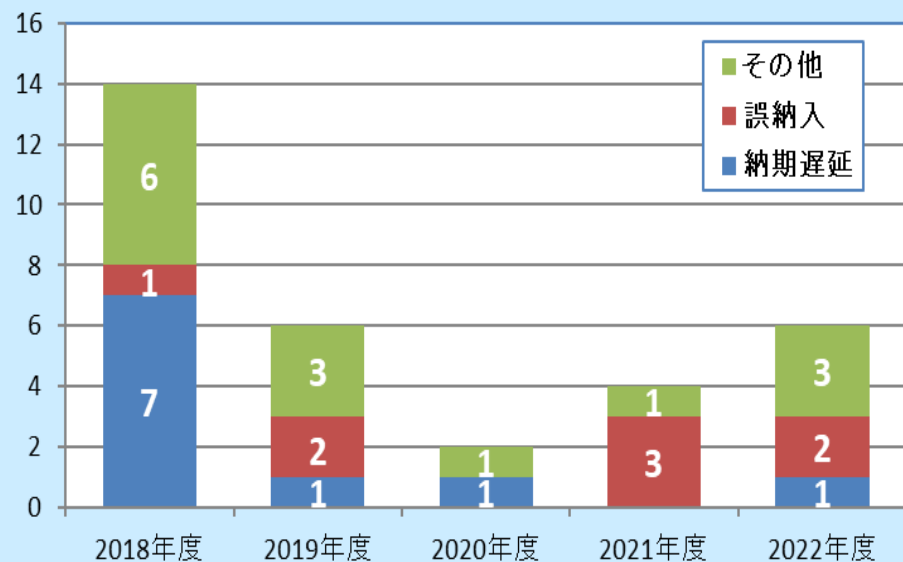
【物流トラブル】

- ・ 目標：誤納入ゼロ、納期トラブルゼロ
- ・ 実績：誤納入2件、納期トラブル1件、その他3件（前年比+2件）
⇒ 思い込み・慣れによる誤納入2件、納期トラブル1件発生

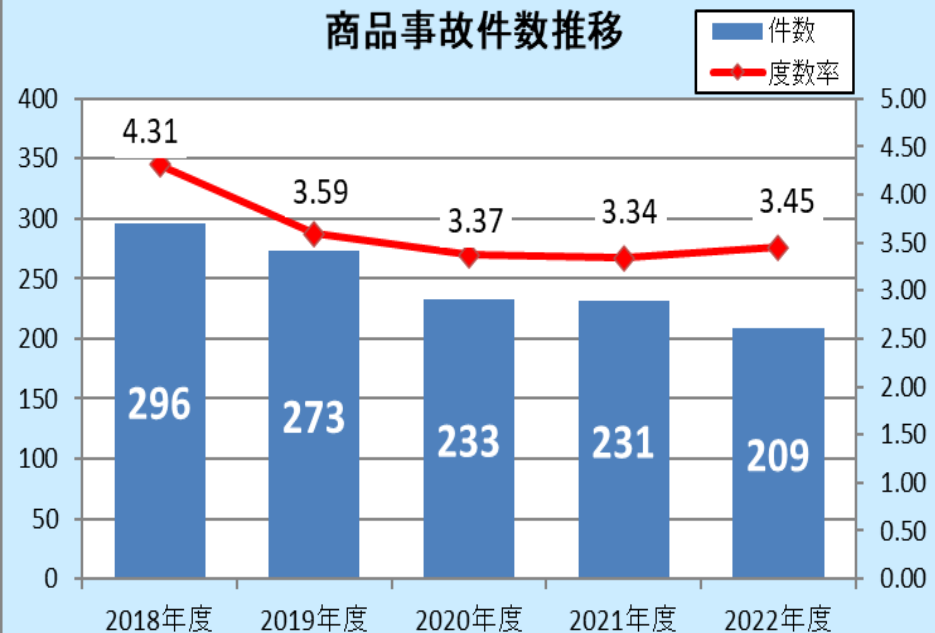
【商品事故】

- ・ 目標：231件以下（度数率含め、2021年度実績値以下を目指す）
- ・ 実績：209件（度数率+0.11（3.34→3.45））
※発生件数は過去最少の数値に抑えられたが、度数率は増加
⇒ 各社本社部門とのリモート会議と啓蒙ポスターを活用した周知を行った

物流トラブル件数推移



商品事故件数推移



2022年度分科会活動の振り返り（路線Gr）

- ◇ 誤納入防止と納期トラブル防止に対して、啓蒙ポスターを活用した繰り返し周知（教育）を継続したが、慣れ・思い込みによる誤納入が2件、納期トラブルが1件発生した
- ◇ 商品事故低減に向けた活動は、発店・各社本社部門と協業し、着店教育をおこなった
2022年度は、JPロジスティクス様の決めた事・決められたことの確実な実践で、商品事故の低減につながった

2022年度取組み課題	振り返り	今後の課題
誤納入防止に向けた乗務員への周知活動	<ul style="list-style-type: none">・慣れ・思い込みによる誤納入が2件発生した・誤納入トラブル事例討議は、当社計画より実施回数が減り、周知による未然防止が弱かった・啓蒙ポスターによる周知活動は継続実施できた	<ul style="list-style-type: none">・慣れ、思い込みに特化した啓蒙ポスターでの周知活動・対面での分科会開催で、他者の取り組みを共有
納期トラブル防止に向けた連絡体制と乗務員への周知活動	<ul style="list-style-type: none">・繁忙期の出荷制限対応で、繁忙期中の納期トラブルは発生しなかったが、伝票の仕分けミスにより納期より1日早い早着が発生した・啓蒙ポスターでの周知活動は継続実施できた	<ul style="list-style-type: none">・ビジュアルで啓蒙する方法は効果が見込める為、継続していく
商品事故の低減に向けた現場巡回活動	<ul style="list-style-type: none">・JPロジスティクス様の決めた事・決められたことの確実な実践で、商品事故の低減になった・発店と各社本社部門との連携に専念し、発店の商品事故を低減できた	<ul style="list-style-type: none">・対面での分科会開催で、他者の取り組みを共有・各社本社部門との連携強化・貨物取扱いが多い中継店所への繰り返し訪問での意見交換

取組事例(路線Gr)

誤納入防止

乗務員のみなさま
いつもありがとうございます

配達トラックへの「積込時」及び「荷卸し時」 「全荷札と送り状の照合」

を確実にお願いします

① 積込時

届先の住所(番地)
及び届先名(工場名)
指定配達日、個数

Point!
全荷札と送り状の照合
届先の住所(番地)
及び届先名(工場名)
指定配達日、個数

② 荷卸し時

届先の住所(番地)
及び届先名(工場名)
指定配達日、個数

check

【指定配達日08月01日】
広島県大竹市東栄3-9
ダイセル物流大竹物流センター

★お届け先の工場の番号は11
check 8 番口

ダイセル物流株式会社

【弊社取扱製品】
弊社の取扱製品は最終的に皆様方の生活用品として
活用されています。お客様が安心してご利用
いただけるよう、間違いなく安全にお届け下さい

自動車部品、電子機器、化粧品、
液晶ディスプレイのフィルター、
ケース等のフィルム

送り状と荷札のお届先名及び
個数が違う場合には
納品せず配達乗務員さんより
配達店にご連絡し、発店経由
でダイセル物流係に
お問い合わせください

ダイセル物流株式会社 作成日2022年11月

納期トラブル防止

乗務員のみなさま
いつもありがとうございます

指定配達日に商品をお届け してください

指定配達日厳守

配達トラックへ積込時、お届け先へ納品時に
全荷札と送り状の照合を確実にお願いします
送り状、荷札、指定配達日シールに
記載している日付を必ず確認してください

この日付が当日の配達日です

指定配達日とは？
お届け日は指定日より
早くても遅くてもだめです
〇日に配達してほしい
という意味です

【指定配達日08月01日】
ダイセル物流(株) 大竹物流センター
★お届け先の工場の番号は11
A 運送会社
ダイセル物流株式会社

この日付が当日の配達日です

指定配達日に商品が届かないとお客様に多大なる
ご迷惑をおかけします。
指定配達日までに商品をお届けできないことが判明し
た場合、必ずダイセル物流(株)までご連絡ください

ダイセル物流株式会社 作成日2022年11月

取組事例(路線Gr)

JPロジスティクス 様

商品事故防止の養生方法改善

フォークリフトでのトラック積み降ろし時での発生が多い為、巻段ボール・プラ段ボールでの養生を実施したが、より良い方法を模索した結果、コの字スリーブ（写真右）を導入し、また、貨物の上部も覆えるように巻段ボールも活用する養生を実施中

<旧養生>



<新養生>

巻段ボール



コの字スリーブ

2023年度目標と取組み課題（路線Gr）

《目指す姿》

各社本社部門との連携を継続し繰り返し過去の対策の周知と教育によりルール遵守を定着し、
物流トラブル・商品事故の低減につながっている

◇ 目標

- ・ 物流トラブル : 誤納入2件以下、納期トラブルゼロ
- ・ 商品事故 : 194件以下（度数率含め、2022年度実績値以下を目指す）

◇ 取組み課題

- ・ 誤納入防止に向けた乗務員及び元請の傭車先への業務ルール周知の活動
- ・ 納期トラブル防止に向けた乗務員への業務ルール周知の活動
- ・ 商品事故低減に繋がる現場巡回の実施（各社本社部門と連携）

取組み課題	取組み内容
誤納入防止に向けた乗務員への周知活動	・啓蒙ポスターでの繰り返し周知を継続していく（元請の傭車先まで拡大） ・リモート会議を活用した過去トラブル再発防止への討議
納期トラブル防止に向けた連絡体制と乗務員への周知活動	・繁忙期の出荷制限対応の継続 ・啓蒙ポスターでの周知教育
商品事故の低減に向けた現場巡回活動	・発店への注意喚起と教育に専念する ・安全品質推進部と各社本社部門と連携 ・商品事故、貨物取扱いが多い中継店所へのアクションは個別対応する

2023年度分科会活動計画(路線Gr)

取組み課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会（全体）		▼	(総会)					▼				
分科会（個別）						▼						▼
誤納入の撲滅	・啓蒙チラシの作成 (配布6月) ・過去トラ研究			・啓蒙チラシでの周知、 教育 ・過去トラ研究			・上期振返り ・過去トラ研究			・過去トラ研究 ・年度振返り		
納期トラブルの 撲滅	・啓蒙チラシ作成 ・過去トラ研究 ・繁忙期の出荷制限 対応（GW）			・啓蒙チラシでの周知、 教育（配布9月） ・過去トラ研究 ・繁忙期の出荷制限対 応（夏期）			・上期振返り ・過去トラ研究 ・繁忙期の出荷制限対 応（年末）			・過去トラ研究 ・年度振返り		
商品事故の低減 （発店への注意喚 起と教育）	・商品事故解析			・荷扱い啓蒙チラシでの繰り返し教育 (配布11月)						・年度振返り		
				・個別対応期間（可能な範囲で現場巡回）								

※ 分科会は、個別：Web開催 全体：対面での開催とする

タンクヤード・内航船Gr

メンバー（敬称略）

- ・ 株式会社辰巳商会
- ・ 林船舶株式会社

2022年度安全品質実績・振返り（タンクヤード・内航船Gr）

- ◇ 目標：トラブル・クレーム「ゼロ」を達成する
実績：3件発生
 - ・タンクローリーへの誤充填
 - ・ドラム充填発送後、口栓部からの液漏れ
 - ・内航船の燃料補給中に燃料オーバーフロー

- ◇ 取組み課題
 - ・船荷役作業の理解度を深め、トラブル防止・業務改善に繋げる
 - ・安全品質向上の取り組み等の意見交換

取組み課題	振返り	今後の課題
船荷役作業の理解度を深め、 トラブル防止・業務改善に繋 げる	コロナ禍で現地・現物・現認 しながらの意見交換ができる 機会を創出できなかった	2022年度に活動できなかった、 ドックの見学、タンククリーニング、荷 役作業等の見学を通じて船荷役 作業の理解度を深める
安全品質向上の取り組み等 の意見交換	各社個別の分科会であつた が、トラブル・労災を共有しト ラブル対策を共通認識するこ とができた	全社集まつの分科会開催で、各 社の安全品質取り組み状況を共 有し、改善に繋げる

2023年度目標と取組み課題（タンクヤード・内航船Gr）

《目指す姿》

辰巳商会、林船舶、ダイセル物流（積み荷役、輸送、揚げ荷役等）におけるトラブルゼロを目指し、安全品質の向上を図る

◇ 目標：トラブル・クレーム「ゼロ」を達成する

◇ 取組み課題

- ・船荷役作業の理解度を深め、トラブル防止・業務改善に繋げる
- ・安全品質向上の取組み等の意見交換

取組み課題	取組み内容
船荷役作業の理解度を深め、 トラブル防止・業務改善に繋げる	ドックの見学、荷役作業等の見学を通じて船荷役作業の理解度を深める
安全品質向上の取組み等の 意見交換	・各現場における安全品質に関する取組み等の共有化、 意見交換を行う ・各現場での困りごとを共有化し、改善に繋げる

2023年度分科会活動計画（タンクヤード・内航船Gr）

取組み課題	2023年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会（全体）			(総会)			▼						▼
分科会（個別）		▼						▼				
船荷役作業の理解度を深め、トラブル防止・業務改善に繋げる	ドックの見学 荷役作業等の見学						荷役作業等の見学					
安全品質向上の取り組み等の意見交換	・トラブル、労災事例と対策の共有化			・各現場における安全品質に関する取り組み等の共有化、意見交換を行う ・各現場での困りごとを共有化し、改善に繋げる			・トラブル、労災事例と対策の共有化			・各現場における安全品質に関する取り組み等の共有化、意見交換を行う ・各現場での困りごとを共有化し、改善に繋げる		

2023年度安全品質協力会活動計画（案）

2023年度安全品質協力会活動計画（案）について

◇ 従来通り対面形式で実施を計画

- ・ 安全品質協力会総会
6/12-13
- ・ 安全品質協力会幹事会
9月・2月
- ・ ダイセル事業所見学会
網干工場見学予定（11月予定）

2023年度活動計画			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◇総会					▼ 6/12,13									
◇幹事会								▼					▼	
◇分科会	ローリー	(全体) (個別)	各分科会の活動計画に基づき実施											
	貸切	(全体) (個別)												
	配送	(全体) (個別)												
	構内	(全体) (個別)												
	路線	(全体) (個別)												
	タンクヤード・ 内航船	(全体) (個別)												
◇ダイセル事業所見学会										▼				
◇親睦会										▼				

2022年度安全品質優良事業者表彰

2022年度安全品質優良事業者表彰

- ◇ 2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）において、
物流トラブル及び商品事故ゼロを達成された5社を「安全品質優良事業者」として
表彰させていただきます

2022年度安全品質優良事業者賞（順不同）

- ・磯部運輸倉庫株式会社
- ・関栄運輸株式会社
- ・株式会社ゲットアップ
- ・中部興運株式会社
- ・株式会社長太

2022年度安全品質特別賞

- ◇ 2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）において、商品事故低減の取組みの中で、昨年度に引き続き、路線分科会グループの目標件数を下回る発生件数及び発生度数率低減という功績を挙げられた企業として、1社を表彰させていただきます。

2022年度安全品質特別賞

・JPロジスティクス株式会社

ご挨拶

株式会社日輪 代表取締役社長 永井 元章 様

以上になります

**今後ともダイセル物流安全品質協力会への
ご協力よろしくお願いいたします**